



さんのうしや 山王社

祭神 おおくにぬしのかみ 大国主神
祭日 5月5日

江戸時代の寛延年間（1748～1751年）のころ、村では凶作が続き、田の稲穂もことごとく害虫のために枯れてしまいました。村民は嘆き^{なげ}悲しみ、何とかしたいと思い、当時八幡宮^{あいどの}相殿の神として祀^{まつ}られていた大穴牟遲神^{おおなむちのかみ}（大国主神）に参り、豊作になるよう祈願しました。そして、豊田郡高崎村（現在の竹原市高崎町）から舞子や社人等を雇って、現在の山王社の地で虫祓^{はら}いの祭典を行いました。する

と、不思議なことに害虫はことごとく死滅し、毎年続いていた凶作がたちまち豊作になりました。

人々は喜び、寛延 4（1751）年、感謝の気持ちを込めてその地に^{ほくら}祠^{まつ}を建てて祀り、豊作を祈願しました。現在の拝殿は昭和 3（1928）年に再建されたものです。

かつて境内には、幹の周りが約 3 m もある^{まき}榎の木があり、大きく枝を張り、空にそびえる姿は雄大でした。

